

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490900036		
法人名	有限会社 まつした		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	広島県三原市明神二丁目11-13 (電話) 0848-67-0294		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490900036-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・入居者の笑顔が多く見られるように、一人ひとりに合った対応を心掛けている。・入居者が安全に、安心して生活ができるグループホーム作りを目指している。・医療機関と適宜に連携を行い、異常の早期発見に努めている。・職員が介護全般・認知症について学習機会を持ち、技術・知識の向上、自己研鑽に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この1年間の特徴的な取組みとして、第一に、「運営に関する利用者、家族等意見の反映」の深化がある。即ち、事業所の提案による定期的な家族会の開催である。以前に一度、家族会を2日に分けて開催したが、出席率が低かった経緯がある。今回も全家族に案内をして9名の参加を得た。今後は盆・正月に定期的開催を予定し、利用者・家族の意見を運営に反映させたい意向がある。第二に、「運営推進会議を活かした取組み」の深化がある。即ち、感染症対策の強化である。会議に参加している地域住民の薬局代表者や市職員から感染症対策の具体的な指導を受け、訪問の制限に関する掲示や消毒液・マスクの設置など、運営に反映させた経緯がある。第三に、「災害対策」の深化がある。即ち、先の東日本大震災や熊本地震に関連して、事業所の防災対策が課題となっており、市危険管理課による災害対策講座に事業所の防災管理者も参加し、避難方法・経路等の講習を受け、日頃行っている防災訓練の課題についての指摘を、災害対策に繋げている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所として4つの理念を設定し、会議等において、理念について確認する場を持っている。理念を意識した介護・援助を心掛けており、入居者のご家族等にも説明している。	開設の翌年に、職員のアンケートを基に作成した理念を所内に掲示し、常に確認出来る環境下で、ケアを実践する上での立ち返るべき原点として位置付けている。職員は各階で理念を唱和すると共に、ミーティング前に確認をしている。基本的な日課以外は、利用者に決めてもらい「生きがいを感ぜる生活」に繋げ、職員の笑顔で「穏やかな生活」を提供している。	毎月の会議で日々のケアを検証しているが、開設から10年を迎え、新たな体制に即した理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで、更なる向上を期待したい。例えば、理念の下に分り易い具体的な年間行動目標・計画（事業所・職員個人）を策定し、定期的に達成度を検証する案など、理念の深化・定着に努め、更なる実践に繋げることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内の祭り等へのお誘いがあったり、地域の保育園児が訪問してくれる地域行事へ参加したり、グループホームに地域の人たちに来ていただいたりと交流を持っている。	天候の良い日に近所を散歩したり、運営推進会議での情報交換を通して、亥の子や夏祭りの地域行事に参加したり、事業所の敬老会等へ民生委員が参加して、地域交流を深めている。又、地域の高校の福祉科から実習生の受け入れや保育所行事への参加、法人関連施設で園児とのふれあい交流会等、地域との相互交流・世代間交流も為されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で、実際に入居者に介護として行っている対応方法等を話すことで、地域の方たちに理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に運営推進会議を開催しており、事業所内での取組みや入居者の状況等について報告し、場合によっては意見をいただいたりしている。	運営推進会議は定期的に開催され、時に家族や地域住民代表として町内会長・民生委員・薬局代表者が、又行政から市・高齢者支援センター（地域包括支援センター）職員がほぼ毎回が参加している。事業所の現況報告や「事故報告」と共に、情報交換・意見交換を行っている。薬局代表者や市職員から感染症対策の指導を受け、運営に反映させた経緯がある。	参加者の意見・情報交換が運営に一定に反映されているが、家族の参加は少ない。議事録閲覧は可能だが、参加できない家族との情報共有が不十分な面がある。今後は、個人情報にも配慮しつつ議事録を送付したり、事業所行事と会議の同日開催案等、日時調整により、多くの家族の参加が得られる様、会議の活性化に向け、更なる工夫を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事故等があった際には早急に連絡を行い、対応をしている。また、不明な点等がある際には頻繁に連絡を取り、助言を受けている。	運営推進会議には、市の高齢者福祉課職員・高齢者支援センター職員が参加し、情報共有を図ると共に、開催報告書は市町担当者に毎回提出している。日々の運営上の相談・助言の他、行政主催の虐待の外部研修にも参加して、連携強化に努めている。更に、市危険管理課による災害対策講座に事業所の防災管理者が参加し、災害対策に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束にあたるケアや原則について会議等で再三、確認を行っているやむを得ず、玄関等を施錠する場合は常時するのではなく、必要最小限にするように徹底している。</p>	<p>マニュアルの策定や内・外部の研修（虐待）を通して、職員は「拘束はしない」必要性を認識し、声掛けに配慮したり、具体的なケアの中で実践を重ねている。玄関は外部侵入防止のため施錠し、玄関ホール・各階扉のセンサーや廊下等にモニター設置の他、利用者によってはベッド柵による拘束を避け、ベッド柵に鈴を設置してリスク管理に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年1回は高齢者虐待防止法に基づく虐待の定義の確認を行っている。ミーティング等で実際に行っているケアが虐待に該当しないか検討している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者に後見等が必要な方はいないが、広島県社会福祉士会パートナーで、成年後見活動をしている社会福祉士が職員にいますので、当該職員が成年後見制度について職場内で説明をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、管理者が重要事項説明書と契約書について十分説明を行い、疑問点がある場合には、丁寧に説明を行い対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、自由に意見を書いていただける準備をしている。運営推進会議でも家族の意見を聞くようにしている</p>	<p>利用者の要望は、職員との会話を通じて把握し、家族とは玄関設置の意見箱・電話連絡・面会時・毎月の請求時・隔月の利用者近況便り送付時を、意見交換の場としている。その意見は送りノート・介護記録で共有する。それにより、利用者の就寝時間が遅いのは、昼夜逆転の周辺症状ではなく、元々の生活習慣によるものと判明した経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	月に1回、ミーティング時に代表者や管理者も参加して、運営や介護方法の意見交換を行い、職員の提案等を検討する機会を設けている。	原則、全員参加の毎月ミーティング、行事等の各種係会、毎日の申送りや随時の個別面談等を通し、意見を聞く機会を設け、必要があれば会議録・申送りノート・介護記録で共有して、介護方法・業務上の提案を実践に繋げている。例えば、職員からの提案で、食材の購入方法の変更や利用者の席配置の提案を試行して、ケア方法の統一に繋げた経緯がある。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	経営サイドとも話し合いの場を持ち、仕事がしやすい、やりがいのある環境であるように努めている。場合によっては、代表者と職員の個人面談も行っている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	外部研修等へも積極的に参加し、勉強する機会を持っている。施設内でも互いに教えあう姿勢で、日々、取り組んでいる。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	地域の事業所が集まる会議等へ参加し、意見交換等を行い、他の事業所の良いところは取り入れたりするようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	本人やご家族から、今までの生活歴や思い等を聞きとり、ご本人様安心して生活ができるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居の際には、自宅でのどのようなことに困っていたかを聞いている。また、入居にあたって不安なことがないかを聞くようにして、対応方法を検討している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>グループホームの利用が妥当ではないと判断した場合には、現在の状況に適したサービス等の説明・紹介を行うような対応をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>自分でできることは自分です。自立支援の考えに基づき、出来ることは積極的に参加してもらうような対応を心掛けている。入居者本人の出来る力を、職員は見つけるようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の面会時には、日頃の生活状況をお話している。入居しても、ご家族との外出等は積極的にしてもらっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人や知人が訪ねてくる人もおり、自分の部屋で、ゆっくりと話が出来るようにしている。</p>	<p>「地域との絆」「気軽に訪問できる事業所作り」を大事にし、近隣の友人・知人の訪問や利用者との会話や生活歴を参考に、家族の協力で美容院・外食・自宅への外出を行い、馴染みの場所で馴染みの顔や声と、何気ない日常を楽しめるように支援している。職員による手紙や電話の取次ぎもある。それらの情報は、申送りノート・業務日誌等で共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の個性に合わせたリビングでの席の配置等は、常に検討している。一人ひとりが安心感を持って穏やかに生活ができるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要があれば、ご家族等の相談には応じている。必要があれば、関係機関等へ繋ぐようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族の意向は十分に聴き、本人の思いも出来る限り聞いて、介護計画に反映させている。	職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、日常会話の中から、その方の行動を理解するよう努めている。家族から、孤独が好きと聞いていた利用者が、実は日中もリビングで過ごせた例や、帰宅願望が激しく、意思疎通も困難だった方の言動を記録・分析して、今はない実家の事を勘違いされていた事がわかり、家族も受け入れが出来るようになった例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活習慣の把握に努め、本人のケアに活用できそうなこと積極的に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の出来ることと、できないことの見極めは常時行っており、出来ることは、これからも出来るように援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回のミーティングで、入居者の状況等について話し合いの場を持ち、その時々に応じたケアプランを作成している。必要に応じて、主治医等からも意見を貰っている。</p>	<p>アセスメント・原案作成は、計画作成担当者が行い、他職員への回覧や関係者の意見を集約して、家族と意思確認を行い、家族とは面会時、又は郵送にて同意書を交わしている。モニタリング・計画の見直しは、計画作成担当者が3か月を基本に行っている。計画は、現在の生活機能が維持できるよう、食事・口腔・着替え等を自助で行える、自立支援を重視している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録に、生活状況のすべてを記録するようにしており、職員間で情報共有が出来るように、送りノートも活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホームで対応できないような場合は関係機関に相談をして、入居者のニーズに応えられるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の地域資源を完全に把握は出来ないが、今後、入居者に合うような社会資源がある場合は、コーディネートできるように援助していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>万全の健康管理を行うために、協力医療機関と連携し、異常の早期発見、重度化予防に努めている。必要に応じて専門医の受診も行っている。</p>	<p>利用者全員が協力医を主治医とし、近隣協力医から週に1回、各階交互に訪問診療を受けている。急変時・夜間・祝祭日でも、24時間体制での法人協力医からの支援が可能であり、適切な医療を受けられる環境にある。専門医の受診は家族が基本だが、職員も同行したり、状態報告書にて情報提供をしている。又、協力歯科医から随時の訪問診療もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>現在、看護職員は勤務していないが、協力医療機関と連携し、健康管理に努め、異常がある場合は連絡し、対応してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には入居時の情報提供を行い、退院時には必要に応じて、担当医等とのカンファレンスに参加し、退院後もスムーズにグループホームでの生活が出来るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>現在、看取りは行っていないが、重度化した場合でも、ご家族等と相談しながら出来る限り対応をしている。</p>	<p>利用開始時に、重度化した場合の対応として、「終末期における対応指針」にて事業所としての基本的な方針を説明し、確認書を交わしている。重度化した際には、本人・家族・医師と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。常勤看護師の配置もないため、看取りは行なっておらず、重度化した際は医療機関と連携した支援を行う方針である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>職員は年に1回、救命救急の訓練に参加し、事故等の緊急時にも、対応出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の消防訓練を実施しており、今後も継続して行っていくこととしている。</p>	<p>防災管理者の指導の下、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施している。特に半年毎の新人研修では、消防署職員も立ち会い、指導・助言の下で、初期消火訓練などを含め、全員が経験できるように取り組んでいる。また、市危険管理課による災害対策講座に、事業所の防災管理者が参加し、災害対策に繋げている。</p>	<p>前回の外部評価でも指摘があったように、具体的な災害時相互支援体制作りが課題となっている。運営推進会議等を通じた地域への協力要請や、地域での防災訓練にも参加する案等、地域との協力体制作りへの取り組みを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報外部に漏れないように、細心の注意を払っている。特に入居者の個人名はアルファベット4文字を用いて表記し、個人名が特定されないように配慮している。	「もし自分がされたら」という意識で、尊敬の念を持って、入浴・排泄ケア等に関わり、利用者に対する言葉かけも、不適切な対応に対する指導により、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。個人情報保護についても、フロア会議の際には利用者の個人名は英字や部屋番号で匿名化したり、ファイルは事務所管理としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の気持ちや、思いを聞き出せるような声掛けの仕方の工夫等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの入居者の生活のペースに合わせて、職員の都合を押し付けることをしないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みを取り入れた服や靴等の選定をしている。好み等はご家族の方にも聞くようにしている。地域の美容院にも協力してもらい、美容院への送迎で、カットやカラーリングに行かれる入居者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、職員と一緒に調理や片付けに参加していただけるように対応している。入居者の誕生日には、ちらし寿司やケーキを作っており、楽しみにして下さる入居者もいる。	献立は法人系列施設の献立を援用し、職員は食材の買い出し・調理を行い、食事形態もミキサー食等に対応可能である。又、利用者もテーブル拭き・食器洗い等、出来る範囲での協力をしている。利用者に応じた食卓・足台を工夫し、食事環境面にも配慮している。更に、雛祭りにちらし寿司等、季節の行事食や「なごみ喫茶」店も食の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の水分摂取量と食事摂取量を，介護記録に記入している。食事は栄養バランスを考えたものを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内の異常や義歯の不具合等がある場合は，近隣の歯科に行き診察をもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し，出来るだけ自分でトイレで排泄ができるように，状態に合わせた援助をしている。</p>	<p>以前は，排泄記録表で排泄パターンを把握していたが，パターンを熟知した現在では，適切な時間にトイレ誘導をしている。半数は夜間のみポータブルトイレ対応や，3割弱は夜間のみおむつ対応で良眠優先とする等，柔軟に対応している。夜間のリスクを考え，ベッド柵に鈴を設置したり，オムツから紙パンツに改善した例等，自立に向けた支援も行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取量に留意し，便秘を予防している。慢性的な便秘の場合には，主治医にも相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>本人のタイミングを聞いて，気持ちよく入浴していただけるように対応している。</p>	<p>10～14時，週2回（夏場は3回）の入浴を基本とし，利用者の体調や入浴習慣に合わせて，柔軟に対応している。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個人浴となっており，利用者の負担を考え，シャワー浴や足浴で対応したり，冬至の柚子湯で寛いでもらうこともある。入居時，お風呂嫌いの方も，生活に慣れるに従って，誘導により入浴を楽しまれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々の生活習慣に合わせて、日中も自分の居室で好きな時に休息が取れるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>連携している保険調剤薬局の薬剤師に処方薬の作用・副作用等の説明をしてもらっている。状態に応じて粉砕等してもらい、内服しやすいようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>自分のしたいことができるように、ご家族の方とも協力しながら、対応している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>年に1~2回は、入居者と職員と一緒に外出する機会を持てるようにしている。ご家族の方と、定期的に外出する入居者も多くいらっしゃる。</p>	<p>普段から希望により、少人数で天候の良い日に近所を散歩したり、亥の子や夏祭りの地域行事にも参加している。春と秋の季節行事として、花見・紅葉狩りドライブや職員の子が通っている保育園行事に参加したり、法人関連施設で園児とのふれあい交流会や家族との外出等、普段は行けないような所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族の協力で、所持したい方は所持できるような体制にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があれば、電話も手紙も自由にやり取りをしていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングに季節感を出すために、毎月、壁画を工夫している。リビングは日当たりが良いので、自然な光で過ごしている。</p> <p>リビングにいる入居者が、天気の変化に気付いて、職員に教えてくれることも多い。</p>	<p>フロアは職員が毎日掃除をし、時に利用者が床掃除を手伝ったり、洗濯物干し・畳み等、出来る範囲の役割も担う生活の場となっている。フロアには季節毎に利用者で作った塗り絵等の作品や、職員が持って来た花も飾られ、プランターのイチゴやきゅうりにも季節が感じられる。新しい入居者に合わせて、動線確保のため、フロアの模様替えをすることもある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者一人ひとり、自分のしたいことが出来る様に配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、自分が自宅で生活していた時に使用していたものを、持ち込んでもらうように、ご家族にもお願いしている。</p>	<p>居室にはエアコン・タンスが設置され、利用者が使い慣れたベッド・布団や家族の写真・自作の水墨画等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫が為されている。壁には、事業所内の敬老会で贈られた感謝状や誕生日の色紙も飾られている。又、利用者によっては、ベッド柵による拘束を避け、夜間、ベッド柵に鈴を付け、リスク管理に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室等にはわかりやすいように、目印をつけて対応している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなごみ

作成日 平成29年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所としての目標が無い	目標を策定しそれに向かって各職員が取り組む体制を作ることが出来る	①事業所としての年間目標の設定 ②各職員の目標を設定する	12ヶ月
2	13	具体的な災害対策が設定されていない	災害対策と災害時の支援体制を作る	①火事以外の災害(土砂災害・水害等)の防災計画を策定する ②地域の方と災害対策について話をする機会を持つ	12ヶ月
3	3	運営委推進会議に入居者やご家族の参加が少ない	毎回、家族か入居者に運営推進会議に参加して頂く	・会議の開催日を具体的に決め、家族等に知らせる仕組みを作る ・運営推進会議の内容を家族にお知らせする	12ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。